

■ 建物情報

屋根の仕様	瓦屋根(ふき土無)(990N/㎡)	風力区分	一般地域	強風地域
外壁の仕様	サイディング(600N/㎡)			

■ 壁量計算

(令第46条第4項、告示第1100号第1、第3)

階	方向	地震力			風圧力			存在壁量(cm)			壁量充足率		判定 J $\geq$ 1.00 かつ K $\geq$ 1.00	壁量計算 判定
		床面積 (㎡)	係数 (cm/㎡)	必要壁量 (cm)	見付面積 (㎡)	係数 (cm/㎡)	必要壁量 (cm)	耐力壁	準耐力 壁	合計	地震力	風圧力		
		A	B	C=A×B	D	E	F=D×E	G	H	I=G+H	J=I/C	K=I/F		
2	X	53.00	28	1,484.00	19.04	50	952.00	2,093.00	363.54	2,456.54	1.65	2.58	○	適合
	Y			1,484.00			952.00	2,366.00	384.93	2,750.93	1.85	2.88	○	
1	X	69.23	39	2,699.97	51.05	50	2,552.50	4,095.00	184.27	4,279.27	1.58	1.67	○	
	Y			2,699.97			2,051.00	4,004.00	470.92	4,474.92	1.65	2.18	○	

・床面積、見付面積: “*”は編集値(任意に入力した値)を使用

・地震力の必要壁量: 「必要壁量割増」を含みます

(必要壁量割増: 1.00)

・準耐力壁: 考慮する 垂壁・腰壁: 考慮する

・判定: 「壁量充足率(地震力・風圧力)」がともに1.00以上 → ○

「壁量充足率(地震力・風圧力)」の一方でも1.00未満 → ×

・壁量計算判定: 「判定」がすべて“○”の場合 → 適合

■ 偏心率

(告示第1100号第4)

階	方向	偏心率	判定 偏心率 $\leq$ 0.30	偏心率判定
2	X	0.00	○	
	Y	0.07	○	
1	X	0.09	○	
	Y	0.04	○	

● 四分割法と偏心率の判定について

告示第1100号第4では、「四分割法」または「偏心率」のいずれかの判定が適合となること、とされています。

四分割法判定=“適合” または 偏心率判定=“適合”

・判定: 「偏心率」が0.30以下 → ○

「偏心率」が0.30超 → ×

・偏心率判定: 「判定」がすべて“○”の場合 → 適合

「判定」がひとつでも“×”の場合 → 不適合

■ 四分割法

(告示第1100号第4)

階	方向	位置	床面積 (㎡)	係数 (cm/㎡)	必要壁量 (cm)	存在壁量 (cm)	壁量充足率	充足率 判定	壁率比	壁率比 判定	四分割法 判定
			①	②	③=①×②	④	⑤=④÷③	⑤>1.00	⑥=⑤小÷⑤大	⑥≥0.5	⑤or⑥=○
2	X	上	13.25	28	371.00	637.00	1.71	○	-	-	適合
		下	13.25	28	371.00	728.00	1.96	○			
	Y	左	13.25	28	371.00	910.00	2.45	○	-	-	
		右	13.25	28	371.00	728.00	1.96	○			
1	X	上	11.68	* 22	256.96	455.00	1.77	○	-	-	
		下	21.20	39	826.80	1,092.00	1.32	○			
	Y	左	13.25	39	516.75	1,456.00	2.81	○	-	-	
		右	20.54	39	801.06	1,820.00	2.27	○			

・充足率判定: 「充足率判定」が“×”の場合は、その方向の壁率比判定を行います。

・四分割法判定: 「充足率判定」または「壁率比判定」が“○”の場合 → 適合

・係数: “*”がついている箇所は平屋建てまたは下屋の係数を使用。

■ N値計算

(告示第1460号第2項のただし書き)

N	告示表三	金物名	金物数量(箇所)		
			1階	2階	計
0	(い)	短ぼぞ差し及びかすがい打ち	56	26	82
~0.65	(ろ)	長ぼぞ差し込み栓又はかど金物CP-L	32	33	65
~1.0	(は)	山形プレートVP又はかど金物CP-T	4	0	4
~1.4	(に)	羽子板ボルト又は短冊金物(スクリュー釘なし)	14	8	22
~1.6	(ほ)	羽子板ボルト又は短冊金物(スクリュー釘あり)	1	4	5
~1.8	(へ)	10kN引き寄せ金物	4	2	6
~2.8	(と)	15kN引き寄せ金物	6	1	7
~3.7	(ち)	20kN引き寄せ金物	0	0	0
~4.7	(り)	25kN引き寄せ金物	2	1	3
~5.6	(ぬ)	15kN引き寄せ金物×2	0	0	0
5.6超	(—)	適合する金物が存在しない	0	0	0

※金物数量は柱頭で1箇所、柱脚で1箇所と集計しています

【建築基準法】壁量計算

建物名 住木邸新築工事

壁量計算表

階の床面積に乗ずる数値

使用耐力壁一覧

存在壁量明細表

準耐力壁等計算表

壁量計算平面図

見付面積根拠図

見付面積計算表

床面積根拠図

床面積計算表

■注意事項

・建築基準法施行令第46条「構造耐力上必要な軸組等」第4項により軸組長さを検討する方法に準拠した計算を行います。

■ 建物概要

建物コード	0
建物名称	住木邸新築工事
備考	
入力者	
建築地名	

床面積(㎡)	2階	53.00	1階	69.23
屋根の仕様	瓦屋根(ふき土無)(990N/㎡)			
外壁の仕様	サイディング(600N/㎡)			
軟弱地盤割増	割増なし			
風力区分	一般地域(50cm/㎡)			

■ 地震力による必要壁量計算

階	床面積 (㎡)	地震力用係数 (cm/㎡)	必要壁量割増	必要壁量 (cm)
	A	B	B2	C=A×B×B2
2	53.00	28	1.00	1,484.00
1	69.23	39		2,699.97

- ・床面積: 1階に「オーバーハング」「ポーチ」および「バルコニー」の面積は含みません。
「小屋裏収納等」は各階面積に含みます。
「*」が付いている数値は面積編集により変更された面積
- ・地震力用係数: 地震力に対する床面積あたりの必要壁量(cm/㎡)
※階の床面積に乘ずる数値を参照
- ・必要壁量割増: 壁量の割増係数(任意設定)。1.00以上1.50以下の範囲で設定を行うことができます。

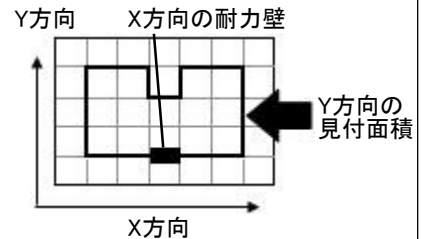
■ 風圧力による必要壁量計算

階	方向	見付面積 (㎡)	風圧力用係数 (cm/㎡)	必要壁量 (cm)
		D	E	F=D×E
2	X	19.04 イ	50	952.00
	Y	19.04 口	50	952.00
1	X	51.05 ハ	50	2,552.50
	Y	41.02 二	50	2,051.00

- ・見付面積: 『見付面積計算表』の(イ・ロ・ハ・ニ)参照
「*」が付いている数値は面積編集により変更された面積
- ・風圧力用係数: 風圧力に対する見付面積あたりの必要壁量
・特定行政庁が特に強い風が吹くと定めた地域: 51~75(cm/㎡)
・その他の地域: 50(cm/㎡)

● 見付面積の方向について

X方向の必要壁量を求める際は
Y方向の見付面積を用います。



■ 壁量判定表 (壁量充足率)

階	方向	必要壁量		存在壁量(cm)			壁量充足率		判定
		地震力 (cm)	風圧力 (cm)	耐力壁	準耐力壁	合計	地震力	風圧力	
		C	F	G	H	I	J=I/C	K=I/F	
2	X	1,484.00	952.00	2,093.00	363.54	2,456.54	1.65	2.58	○
	Y	1,484.00	952.00	2,366.00	384.93	2,750.93	1.85	2.88	○
1	X	2,699.97	2,552.50	4,095.00	184.27	4,279.27	1.58	1.67	○
	Y	2,699.97	2,051.00	4,004.00	470.92	4,474.92	1.65	2.18	○

- ・存在壁量: 壁倍率×壁長 ※『存在壁量明細表』を参照
耐力壁の欄に「#」付きの場合は耐力壁壁量が必要壁量の1/2未満のため別途柱の安全性の検証等が必要
- ・壁量充足率: 存在壁量÷必要壁量(地震力・風圧力)
- ・判定: 壁量充足率(地震力、風圧力)がともに1.00以上の場合 → ○
壁量充足率(地震力、風圧力)が一方でも1.00未満の場合 → ×

■ 壁量計算判定

- 壁量充足率の各階、各方向の判定がすべて“○”の場合 → 適合
- 壁量充足率の各階、各方向の判定がひとつでも“×”の場合 → 不適合

壁量計算判定

適合

■ コメント

1. 階の床面積に乗ずる数値(単位 cm/m^2)(令第46条第4項)

項目	設定値
2階階高(m)	2.800
1階階高(m)	2.900
建物最高高さ-軒高さ(m)	1.710
標準せん断力係数C0	0.2
2階床面積(m^2)	53.00
1階床面積(m^2)	69.23
軒の出(m)	0.75
屋根勾配(寸)	4.00
屋根の仕様	瓦屋根(ふき土無)(990N/ m^2)
外壁の仕様	サイディング(600N/ m^2)
太陽光発電設備等(N/ m^2)	なし
屋根または天井断熱材(N/ m^2)	100(固定値)
外壁断熱材(N/ m^2)	70(固定値)
建物用途(積載荷重N/ m^2)	住宅(600)

階	壁の床面積に乗ずる数値(cm/m^2)
2階	28
1階	39

2025年基準

使用耐力壁一覧

日付: 2024年10月17日 15:09:54

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

材種名	最低 厚さ (mm)	対象告示または 大臣認定番号	規格	釘打ちの方法		倍率
				種類	間隔 (mm)	
石膏ボード(床勝ち大壁)	12	昭56建告第1100号第1 第五号	JIS A6901- 2005	GNF40又 はGNC40	150以下	0.90
筋かい(45×90)(シングル)	—	令第46条表1(4)(6)	—	—	—	2.00
筋かい(45×90)(ダブル)	—	令第46条表1(4)(6)	—	—	—	4.00

2025年基準

存在壁量明細表
(1階X方向)

日付: 2024年10月17日 15:09:54

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱 1	柱 2	部位名	材種名	対象告示または大臣認定番号	壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (cm)	備考
					a	b	G=a×b	
4	5	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	136.50	273.00	
8	9	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
18	19	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
19	20	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	136.50	546.00	
23	24	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
30	31	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
31	32	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	136.50	546.00	
40	41	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
42	43	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
43	44	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
55	56	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
57	58	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
58	59	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
60	61	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
					存在壁量合計		4,095.00	

■表記の説明

「壁倍率」: # → 同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0倍となるように低減

「備考」: ※ → 斜め壁の直交成分を表示

「網掛け」:  → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

存在壁量明細表
(1階Y方向)

日付: 2024年10月17日 15:09:54

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱 1	柱 2	部位名	材種名	対象告示または大臣認定番号	壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (cm)	備考
					a	b	G=a×b	
18	25	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
25	30	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
37	42	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
42	46	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
46	49	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
49	52	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
52	55	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
21	28	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
45	47	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
53	58	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
5	13	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	182.00	728.00	
36	41	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
48	51	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
51	54	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	91.00	364.00	
54	61	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
存在壁量合計							4,004.00	

■表記の説明

「壁倍率」: # → 同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0倍となるように低減

「備考」: ※ → 斜め壁の直交成分を表示

「網掛け」:  → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

存在壁量明細表
(2階X方向)

日付: 2024年10月17日 15:09:54

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱 1	柱 2	部位名	材種名	対象告示または大臣認定番号	壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (cm)	備考
					a	b	G=a×b	
1	2	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
2	3	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	136.50	273.00	
5	6	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
17	18	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
19	20	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
21	22	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
22	23	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
33	34	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
35	36	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
36	37	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
38	39	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
					存在壁量合計		2,093.00	

■表記の説明

「壁倍率」: # → 同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0倍となるように低減

「備考」: ※ → 斜め壁の直交成分を表示

「網掛け」:  → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

存在壁量明細表
(2階Y方向)

日付: 2024年10月17日 15:09:54

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱 1	柱 2	部位名	材種名	対象告示または大臣認定番号	壁倍率	壁長 (cm)	存在壁量 (cm)	備考
					a	b	$G=a \times b$	
1	9	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	182.00	364.00	
13	21	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
21	27	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
30	33	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
4	12	(筋かい)	筋かい(45×90) ダブル		4.00	182.00	728.00	
7	8	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
20	26	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
26	29	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル	令第46条表1(4)(6)	2.00	91.00	182.00	
32	39	(筋かい)	筋かい(45×90) シングル		2.00	91.00	182.00	
					存在壁量合計		2,366.00	

■表記の説明

「壁倍率」: # → 同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0倍となるように低減

「備考」: ※ → 斜め壁の直交成分を表示

「網掛け」:  → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

準耐力壁等計算表
(1階X方向)

日付: 2024年10月17日 15:09:54

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱 1	柱 2	部位名	材種名	A		開口 種類	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	備考
				基準 倍率	木 ずれ 係数		開口 高さ (cm)	取付 高さ (cm)	下地 貼材 高さ (cm)	垂壁 高さ (cm)	腰壁 高さ (cm)	下地 貼材 実高さ (cm)	横架材 間内法 寸法 (cm)	有効 壁倍率	壁長 (cm)	存在 壁量 (cm)	
4	5	浴室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	136.5	61.42	
8	9	玄関	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
58	59	ダイニング	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
60	61	ダイニング	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
																合計	184.27

$$F = E - D \text{ (注)} \quad G = D - C \text{ (注)} \quad H = F + G \quad J = A \times B \times H \div I \quad L = J \times K$$

(注)垂壁高さ・腰壁高さはそれぞれ36cm以上のときのみ下地貼材実高さに算入します。

開口種類欄に#が付いている壁は隣接する開口の高さ情報を使用。

備考欄が ※ の行は斜め壁の直行成分を表示

の行は同位置の壁倍率が7倍を超えたため有効壁倍率を低減

「網掛け」: ☐ → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

準耐力壁等計算表
(1階Y方向)

日付: 2024年10月17日 15:09:54

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱 1	柱 2	部位名	材種名	A		開口 種類	C		E	F	G	H	I	J	K	L	備考
				基準 倍率	木 ずれ 係数		開口 高さ (cm)	取付 高さ (cm)									
37	42	納戸	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
7	14	ホール	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	136.5	61.42	
2	9	トイレ	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
5	13	浴室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	182.0	81.90	
17	24	洗面室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
24	29	キッチン	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
36	41	キッチン	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
48	51	ダイニング	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
51	54	ダイニング	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
54	61	ダイニング	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	284.4	0.45	91.0	40.95	
																合計	470.92

$F = E - D$ (注) $G = D - C$ (注) $H = F + G$ $J = A \times B \times H \div I$ $L = J \times K$
(注)垂壁高さ・腰壁高さはそれぞれ36cm以上のおきのみ下地貼材実高さに算入します。

開口種類欄に#が付いている壁は隣接する開口の高さ情報を使用。

備考欄が ※ の行は斜め壁の直行成分を表示

の行は同位置の壁倍率が7倍を超えたため有効壁倍率を低減

「網掛け」: ☐ → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

準耐力壁等計算表
(2階X方向)

日付: 2024年10月17日 15:09:54

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱 1	柱 2	部位名	材種名	A		開口 種類	C		E	F	G	H	I	J	K	L	備考
				基準 倍率	木 ずれ 係数		開口 高さ (cm)	取付 高さ (cm)									
1	2	階段	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
2	3	階段	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	136.5	64.15	
4	5	子供室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
5	6	子供室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
33	34	子供室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
35	36	子供室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
36	37	主寝室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
38	39	主寝室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
																合計	363.54

$F = E - D$ (注) $G = D - C$ (注) $H = F + G$ $J = A \times B \times H \div I$ $L = J \times K$
(注)垂壁高さ・腰壁高さはそれぞれ36cm以上のときのみ下地貼材実高さに算入します。

開口種類欄に#が付いている壁は隣接する開口の高さ情報を使用。

備考欄が ※ の行は斜め壁の直行成分を表示

の行は同位置の壁倍率が7倍を超えたため有効壁倍率を低減

「網掛け」: ☐ → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

準耐力壁等計算表
(2階Y方向)

日付: 2024年10月17日 15:09:54
建物コード: 000000
建物名: 住木邸新築工事

柱 1	柱 2	部位名	材種名	A		開口 種類	C		E	F	G	H	I	J	K	L	備考
				基準 倍率	木 ずれ 係数		開口 高さ (cm)	取付 高さ (cm)									
1	9	階段	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	182.0	85.54	
13	21	トイレ	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
21	27	子供室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
30	33	子供室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
7	8	子供室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
20	26	主寝室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
26	29	主寝室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
32	39	主寝室	石膏ボード(床勝ち大壁)	0.90	0.6	無	0.0	0.0	240.0	240.0	0.0	240.0	273.0	0.47	91.0	42.77	
																合計	384.93

$F = E - D$ (注) $G = D - C$ (注) $H = F + G$ $J = A \times B \times H \div I$ $L = J \times K$
(注)垂壁高さ・腰壁高さはそれぞれ36cm以上のときのみ下地貼材実高さに算入します。

開口種類欄に#が付いている壁は隣接する開口の高さ情報を使用。
備考欄が ※ の行は斜め壁の直行成分を表示
の行は同位置の壁倍率が7倍を超えたため有効壁倍率を低減
「網掛け」: ☐ → 設計者が任意に追加した材種の行は網掛けで表示されます。

2025年基準

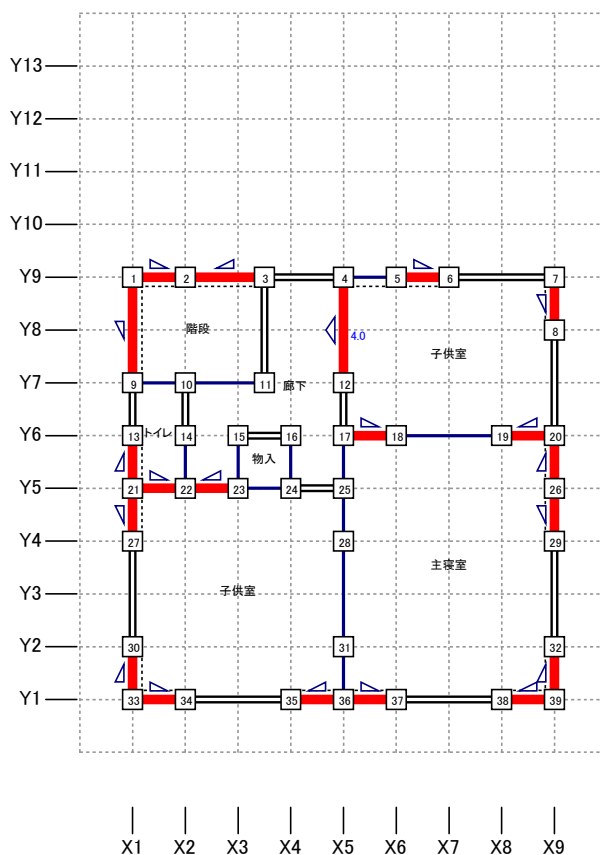
壁量計算平面図

日付: 2024年10月17日 15:09:54

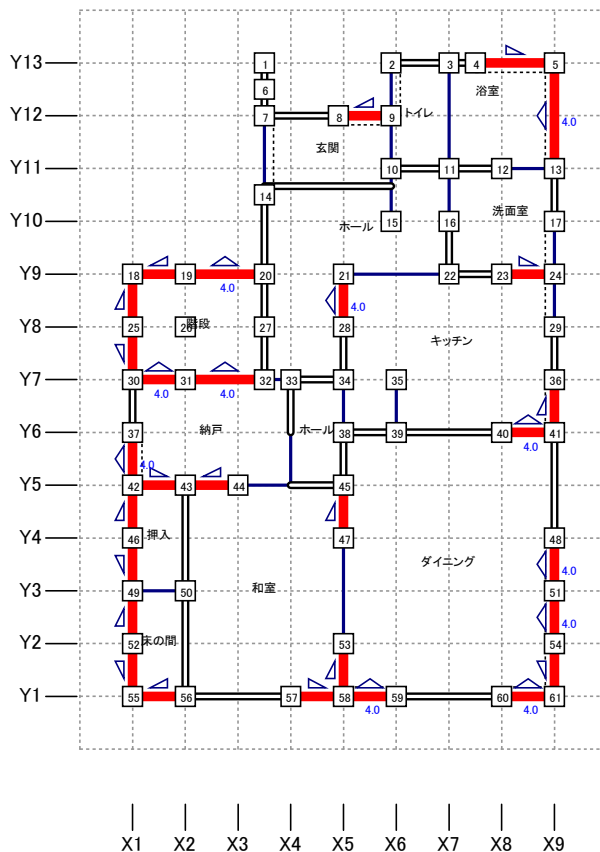
建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

2階



1階



縮尺 1/130

※準耐力壁: 考慮する 垂壁・腰壁: 考慮する

凡例

— 一般壁	開口部	柱頭	柱脚	[n] 柱
■ 面材耐力壁	筋かいダブル	筋かいシングル	筋かいダブル	筋かいシングル
■ 小屋裏収納等	壁倍率 2.0	(表記の無い壁の壁倍率は 2.0)		

..... 準耐力壁

2025年基準

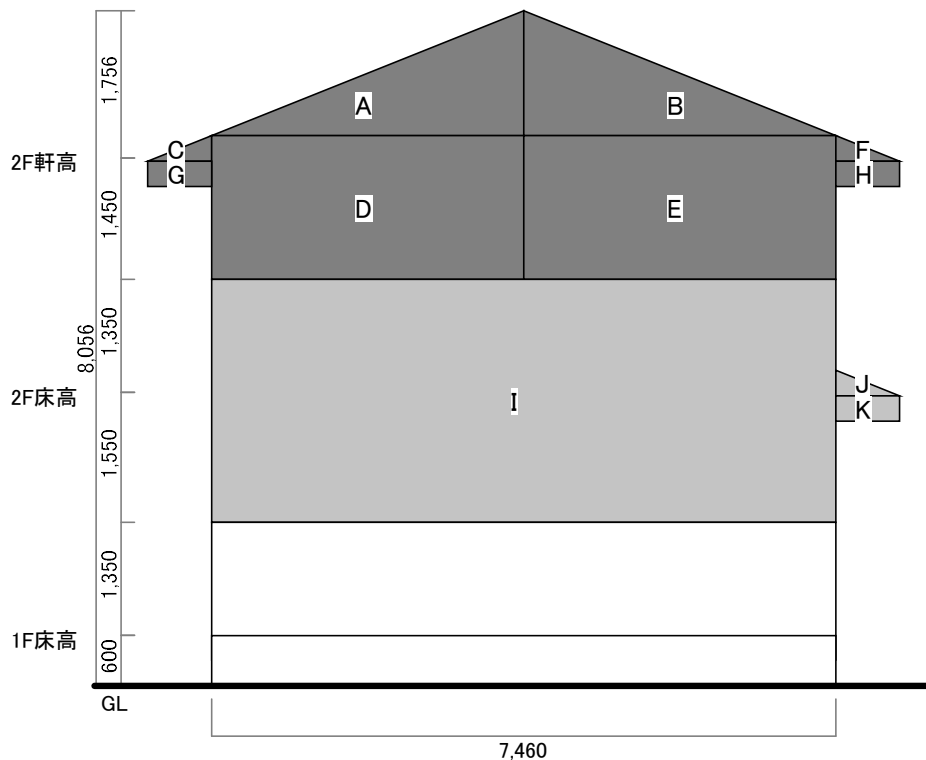
見付面積根拠図

日付: 2024年10月17日 15:09:54

建物コード: 000000

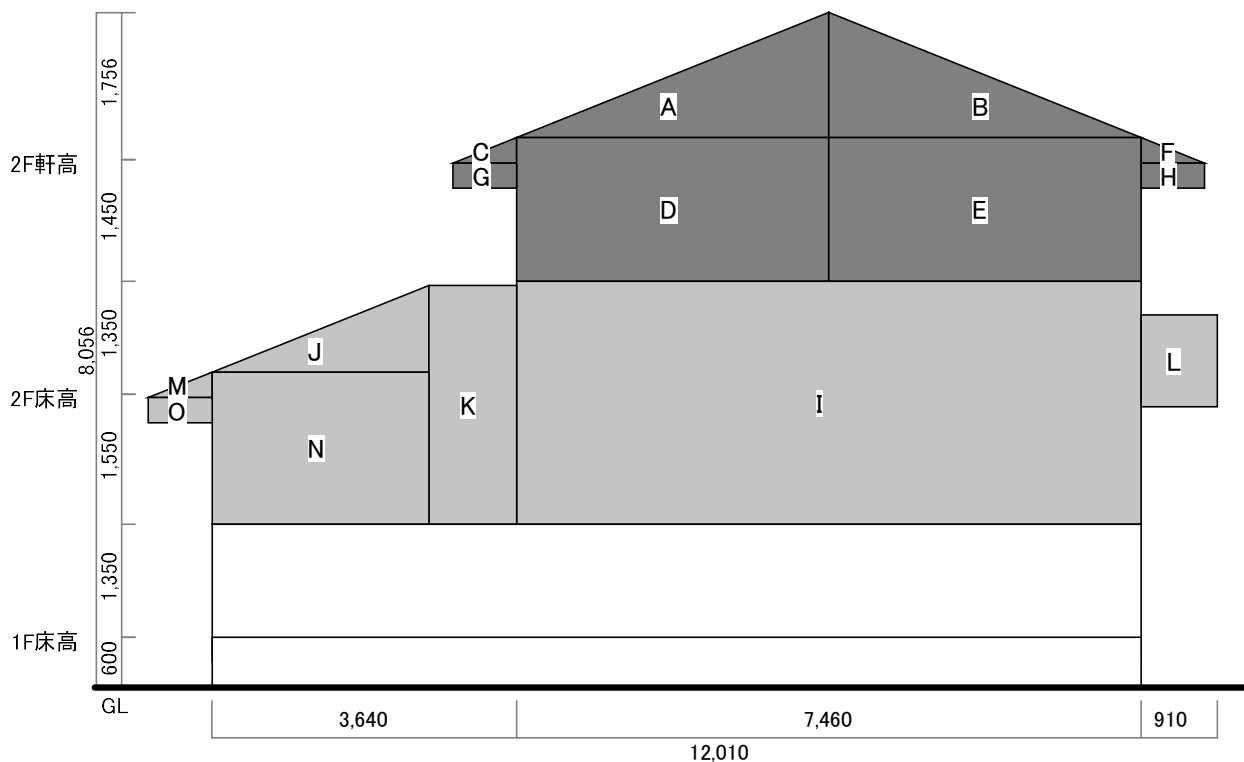
建物名: 住木邸新築工事

■X方向見付面積(Y方向壁量計算用)



縮尺 1/90

■Y方向見付面積(X方向壁量計算用)



縮尺 1/90

凡例

1、2階見付面積加算範囲

1階見付面積加算範囲

壁厚さ: 90mm 屋根厚さ: 300mm

※表示されている建物形状は、壁芯より壁厚さ、屋根厚さ分外側に広げた形状です。

2025年基準

見付面積計算表(X方向)
Y方向の壁量計算用

日付: 2024年10月17日 15:09:54

建物コード: 000000

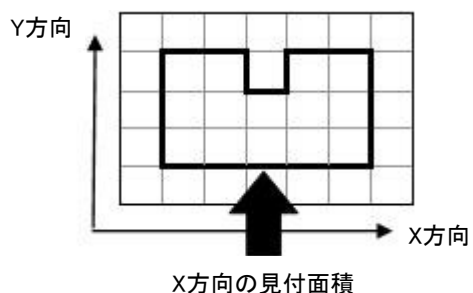
建物名: 住木邸新築工事

区画	計算式	面積 (㎡)
A	$3.730 \times 1.492 \div 2$	2.7825800
B	$3.730 \times 1.492 \div 2$	2.7825800
C	$0.760 \times 0.304 \div 2$	0.1155200
D	3.730×1.714	6.3932200
E	3.730×1.714	6.3932200
F	$0.760 \times 0.304 \div 2$	0.1155200
G	0.760×0.300	0.2280000
H	0.760×0.300	0.2280000
I	7.460×2.900	21.6340000
J	$0.760 \times 0.304 \div 2$	0.1155200
K	0.760×0.300	0.2280000

■計算結果

階	計算式	見付面積 (㎡)	記号
2階	A+B+C+D+E+F+G+H	19.04	口
1階	A+B+C+D+E+F+G+H+I+J+K	41.02	二

■見付面積の方向



2025年基準

見付面積計算表(Y方向)

X方向の壁量計算用

日付: 2024年10月17日 15:09:54

建物コード: 000000

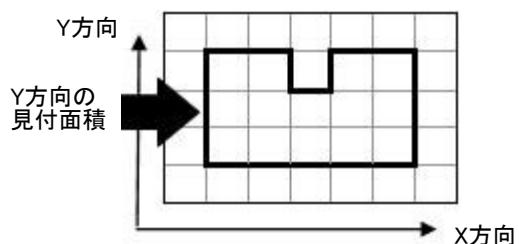
建物名: 住木邸新築工事

区画	計算式	面積 (㎡)
A	$3.730 \times 1.492 \div 2$	2.7825800
B	$3.730 \times 1.492 \div 2$	2.7825800
C	$0.760 \times 0.304 \div 2$	0.1155200
D	3.730×1.714	6.3932200
E	3.730×1.714	6.3932200
F	$0.760 \times 0.304 \div 2$	0.1155200
G	0.760×0.300	0.2280000
H	0.760×0.300	0.2280000
I	7.460×2.900	21.6340000
J	$2.593 \times 1.037 \div 2$	1.3444705
K	1.048×2.851	2.9878480
L	0.910×1.100	1.0010000
M	$0.760 \times 0.304 \div 2$	0.1155200
N	2.593×1.814	4.7037020
O	0.760×0.300	0.2280000

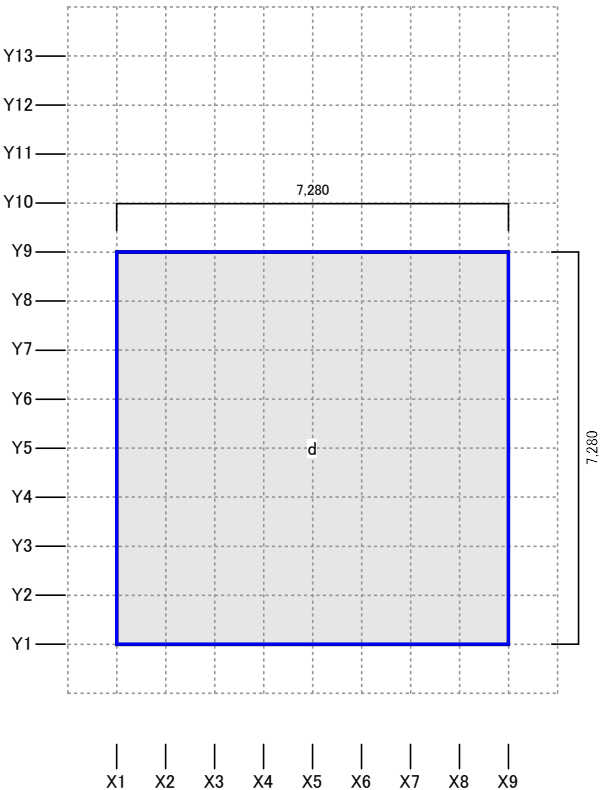
■計算結果

階	計算式	見付面積 (㎡)	記号
2階	A+B+C+D+E+F+G+H	19.04	イ
1階	A+B+C+D+E+F+G+H+I+J+K+L+M+N+O	51.05	ハ

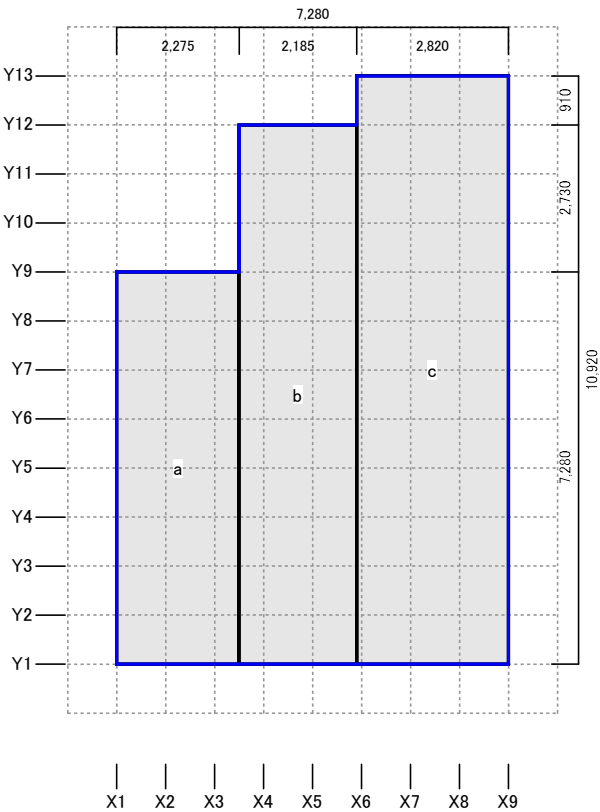
■見付面積の方向



2階



1階



縮尺 1/140

凡例

床面積区画

a b c 床面積区画名

■ブロック別床面積計算表

[1階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
a	7.280	2.275	16.5620000	
b	10.010	2.185	21.8718500	
c	10.920	2.820	30.7944000	

[2階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
d	7.280	7.280	52.9984000	

■壁量計算用床面積

階	部位	計算式	壁量計算用床面積 (㎡)
2	床	d	53.00
	小屋裏収納等		0.00
	合計	(2階床)+(2階小屋裏収納等)×1.4÷2.1	53.00
1	床	a+b+c	69.23
	小屋裏収納等		0.00
	合計	(1階床)+(1階小屋裏収納等)×1.4÷2.1	69.23

■記号の説明

「備考」:

- ◇ → 小屋裏収納等範囲(小屋裏収納等の水平投影面積×1.4÷2.1)
- ◆ → 小屋裏収納等重複範囲(小屋裏収納等の水平投影面積×1.4÷2.1×2)
- ▲ → 三角形区画

2025年基準

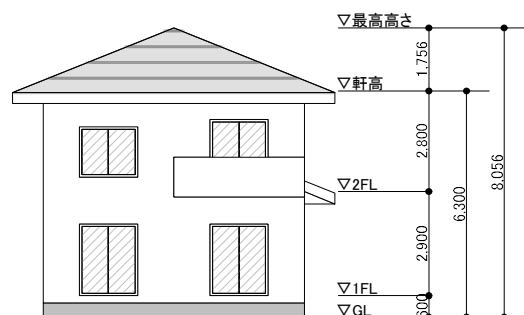
立面図

日付: 2024年10月17日 15:09:54

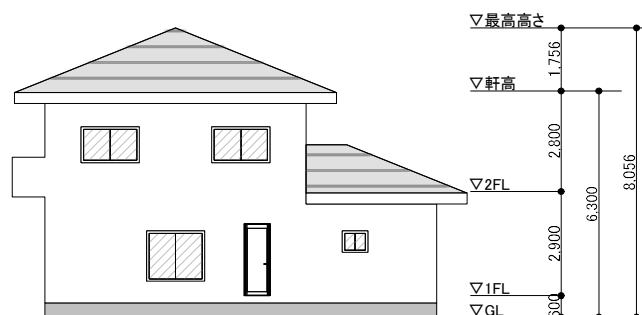
建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

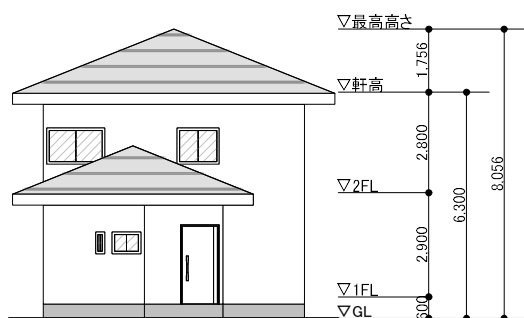
南立面図



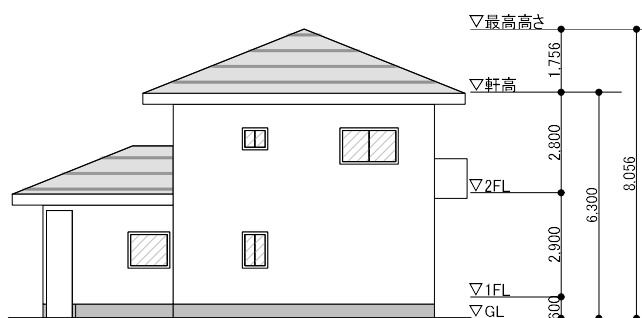
東立面図



北立面図



西立面図



縮尺: 1/210

【建築基準法】四分割法

建物名 住木邸新築工事

四分割法判定表

四分割法存在壁量明細表

四分割法平面図

四分割法床面積根拠図

四分割法床面積計算表

■注意事項

- ・平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」に基づき、壁量充足率および壁率比を用いて軸組を釣合い良く配置する方法に準拠した計算を行います。
- ・四分割法と偏心率の判定結果については、平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」により、いずれかの判定が適合となること、とされています。

■ 建物情報

屋根の仕様	瓦屋根(ふき土無)
外壁の仕様	サイディング
建物の階数	2階建て

■ 壁量係数

2階	28
1階	39
下屋	22

※算定式により求めた必要壁量係数を表示

■ 建物長さ1/4長さ

階	方向	全長(m)	1/4長さ(m)
2	X	7.280	1.820
	Y	7.280	1.820
1	X	7.280	1.820
	Y	10.920	2.730

■ 使用壁材一覧

材種名	壁倍率	対象告示または大臣認定番号
筋かい(45×90)(たすき掛け)	2.0(4.0)	

・設計者が任意に追加した材種の行は網掛け()で表示されます。

■ 判定

階	方向	位置	有効面積 (㎡)	壁量係数 (cm/㎡)	必要壁量 (cm)	存在壁量 (cm)	壁量充足率	充足率 判定	壁率比	壁率比 判定	判定
			①	②	③=①×②	④	⑤=④÷③	⑤>1.00	⑥=⑤小÷⑤大	⑥≥0.5	AorB=○
2	X	上	13.25	28	371.00	637.00	1.71	○	-	-	○
		下	13.25	28	371.00	728.00	1.96	○			
	Y	左	13.25	28	371.00	910.00	2.45	○	-	-	○
		右	13.25	28	371.00	728.00	1.96	○			
1	X	上	11.68	* 22	256.96	455.00	1.77	○	-	-	○
		下	21.20	39	826.80	1,092.00	1.32	○			
	Y	左	13.25	39	516.75	1,456.00	2.81	○	-	-	○
		右	20.54	39	801.06	1,820.00	2.27	○			

・①有効面積は建物の幅、奥行き長さを1/4分割した部分の面積です。
跳ね出しバルコニーは該当面積の40%を1階の有効面積に加算します。
側端部分が複数に分かれている場合は△マークで表します。偏心率により壁の配置バランスを検討してください。

・②壁量係数欄の*は、「平屋建てまたは下屋」の係数を用いたことを表します。

・④存在壁量は、「四分割法存在壁量明細表」を参照ください。

・充足率判定が×の場合は、壁率比判定を行います。

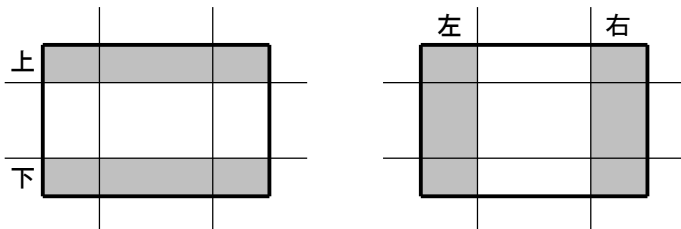
【四分割法判定】

判定がすべて“○”の場合 → 適合
判定がひとつでも“×”の場合 → 不適合

四分割法判定

適合

【四分割範囲】



2025年基準

四分割法存在壁量明細表 (1階)

日付: 2024年10月17日 15:10:24

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

■1階X方向上の存在壁量(cm)

上	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	Y13	273.00												273.00
	Y12	182.00												182.00
上 壁量合計(cm)														455.00

■1階X方向下の存在壁量(cm)

下	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	Y1	182.00	182.00	364.00	364.00									1,092.00
下 壁量合計(cm)														1,092.00

■1階Y方向左の存在壁量(cm)

左	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	X1	182.00	182.00	364.00	182.00	182.00	182.00	182.00						1,456.00
左 壁量合計(cm)														1,456.00

■1階Y方向右の存在壁量(cm)

右	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	X9	728.00	182.00	364.00	364.00	182.00								1,820.00
右 壁量合計(cm)														1,820.00

・建物長さをそれぞれの方向で1/4境界線で分割した上下左右の区画に含まれる壁量を集計します。

・各通りに存在する耐力壁(筋かい・面材)毎の存在壁量を壁1、壁2、…と表示しています。

(存在壁量 = 耐力壁の壁倍率 × 長さ とします)

・準耐力壁等は四分割法の計算においては考慮されません。

2025年基準

四分割法存在壁量明細表
(2階)

日付: 2024年10月17日 15:10:24

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

■2階X方向上の存在壁量(cm)

上	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	Y9	182.00	273.00	182.00										637.00
											上 壁量合計(cm)		637.00	

■2階X方向下の存在壁量(cm)

下	Y通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	Y1	182.00	182.00	182.00	182.00									728.00
下 壁量合計 (cm)											728.00			

■2階Y方向左の存在壁量(cm)

左	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	X1	364.00	182.00	182.00	182.00									910.00
左 壁量合計(cm)											910.00			

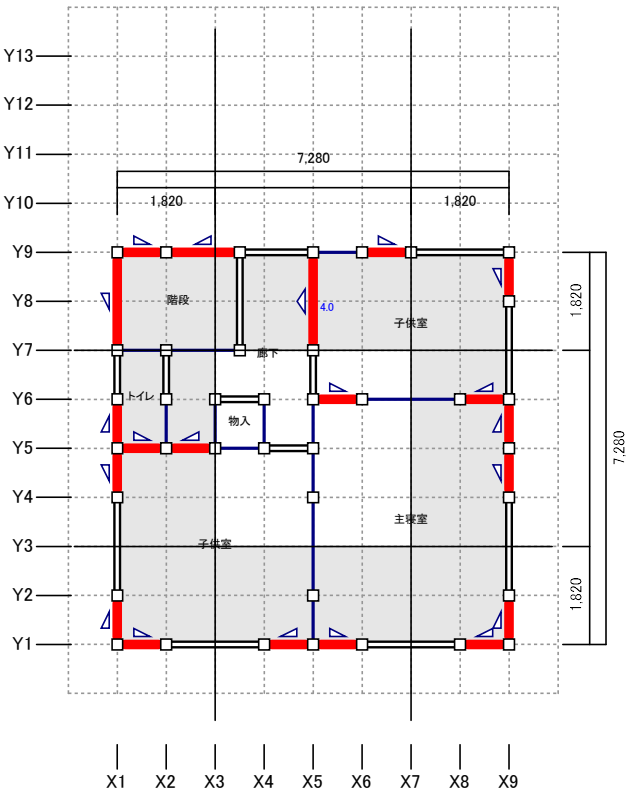
■2階Y方向右の存在壁量(cm)

右	X通り	壁1	壁2	壁3	壁4	壁5	壁6	壁7	壁8	壁9	壁10	壁11	壁12	合計
	X9	182.00	182.00	182.00	182.00									728.00
右 壁量合計(cm)													728.00	

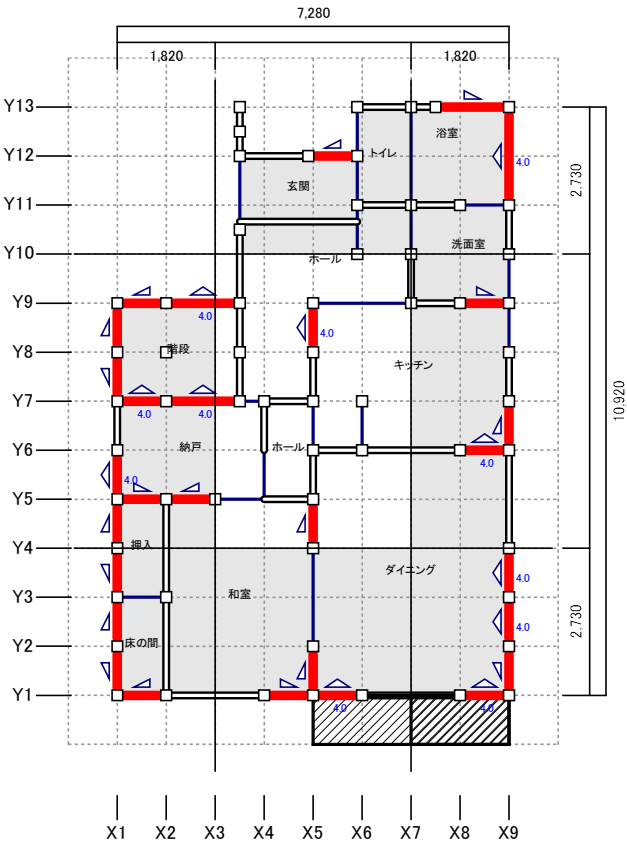
- ・建物長さをそれぞれの方向で1/4境界線で分割した上下左右の区画に含まれる壁量を集計します。
- ・各通りに存在する耐力壁(筋かい・面材)毎の存在壁量を壁1、壁2、…と表示しています。
(存在壁量 = 耐力壁の壁倍率 × 長さ とします)
- ・準耐力壁等は四分割法の計算においては考慮されません。

四分割法平面図

2階



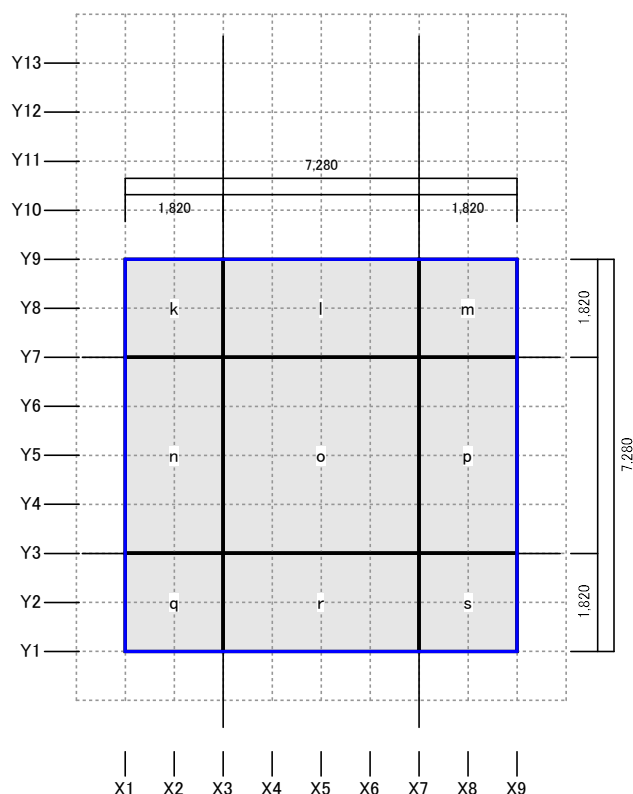
1階



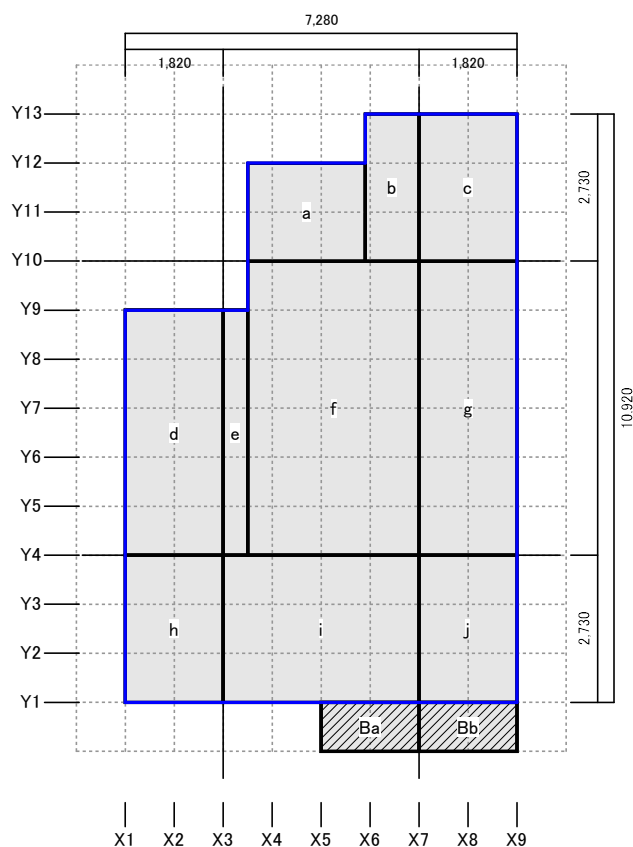
縮尺 1/140

- 凡例
- 一般壁 (Blue line)
 - 開口部 (Red line with triangle)
 - 筋かいダブル (Red line with double triangle)
 - 筋かいシングル (Red line with single triangle)
 - 柱 (Square symbol)
 - 柱頭 (Red line with circle)
 - 柱脚 (Red line with circle)
 - 面材耐力壁 (Red line with double triangle)
 - 壁倍率 (Red line with double triangle)
 - 2.0 (Red line with double triangle)
 - (表記の無い壁の壁倍率は 2.0)
 - 1/4範囲 (Gray square)
 - バルコニー (Hatched square)
 - オーバーハング (Green hatched square)
 - 小屋裏収納等 (Cross-hatched square)

2階



1階



縮尺 1/140

凡例

床面積区画 オーバーハング バルコニー

a b c 床面積区画名 Ba Bb Bc 床面積区画名(バルコニー)

【建築基準法】 偏心率

建物名 住木邸新築工事

偏心率計算表

偏心率明細表

偏心率平面図

■注意事項

- ・平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」に基づき、偏心率を用いて軸組を釣合い良く配置する方法に準拠した計算を行います。
- ・四分割法と偏心率の判定結果については、平成12年建設省告示第1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」により、いずれかの判定が適合となること、とされています。

要素名	階	方向	計算式	計算値	備考
床面積 (㎡)	2	-	2階床面積(バルコニーは含まず、吹抜を含む)	53.00	
	1	-	1階床面積(オーバーハングは含まず、ポーチを含む)	69.23	
重心	2	X座標	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心X座標} \times \text{面積}) \div 2\text{階床面積}$	3.64	
		Y座標	$\Sigma(\text{分割した三角形の重心Y座標} \times \text{面積}) \div 2\text{階床面積}$	4.55	
	1	X座標	$\{22 \Sigma(1\text{階三角形重心X座標} \times \text{面積}) + 23 \Sigma(2\text{階三角形重心X座標} \times \text{面積})\} \div (22 \times \text{床面積}[1\text{階}] + 23 \times \text{床面積}[2\text{階}])$	3.81	
		Y座標	$\{22 \Sigma(1\text{階三角形重心Y座標} \times \text{面積}) + 23 \Sigma(2\text{階三角形重心Y座標} \times \text{面積})\} \div (22 \times \text{床面積}[1\text{階}] + 23 \times \text{床面積}[2\text{階}])$	5.24	
有効耐力壁量 (m)	2	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階X方向壁長})$	20.93	イ
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階Y方向壁長})$	23.66	イ
	1	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階X方向壁長})$	40.95	イ
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階Y方向壁長})$	40.04	イ
耐震要素	2	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階X方向壁長} \times \text{壁のY座標})$	95.23	口
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 2\text{階Y方向壁長} \times \text{壁のX座標})$	79.50	口
	1	X方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階X方向壁長} \times \text{壁のY座標})$	231.04	口
		Y方向	$\Sigma(\text{壁倍率} \times 1\text{階Y方向壁長} \times \text{壁のX座標})$	159.00	口
剛心座標	2	X座標	耐震要素[2階Y方向] $\div$ 有効耐力壁量[2階Y方向]	3.36	
		Y座標	耐震要素[2階X方向] $\div$ 有効耐力壁量[2階X方向]	4.55	
	1	X座標	耐震要素[1階Y方向] $\div$ 有効耐力壁量[1階Y方向]	3.97	
		Y座標	耐震要素[1階X方向] $\div$ 有効耐力壁量[1階X方向]	5.64	
偏心距離 (m)	2	X方向	絶対値(剛心[2階X座標] - 重心[2階X座標])	0.28	
		Y方向	絶対値(剛心[2階Y座標] - 重心[2階Y座標])	0.00	
	1	X方向	絶対値(剛心[1階X座標] - 重心[1階X座標])	0.16	
		Y方向	絶対値(剛心[1階Y座標] - 重心[1階Y座標])	0.40	
ねじり剛性	2	X方向	2階X方向各壁のねじり剛性の合計	183.87	ハ
		Y方向	2階Y方向各壁のねじり剛性の合計	215.17	ハ
		合計	ねじり剛性[2階X方向] + ねじり剛性[2階Y方向]	399.04	
	1	X方向	1階X方向各壁のねじり剛性の合計	468.12	ハ
		Y方向	1階Y方向各壁のねじり剛性の合計	429.67	ハ
		合計	ねじり剛性[1階X方向] + ねじり剛性[1階Y方向]	897.79	
弾力半径	2	X方向	$\sqrt{(\text{ねじり剛性}[2\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[2\text{階X方向}])}$	4.37	
		Y方向	$\sqrt{(\text{ねじり剛性}[2\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[2\text{階Y方向}])}$	4.11	
	1	X方向	$\sqrt{(\text{ねじり剛性}[1\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[1\text{階X方向}])}$	4.68	
		Y方向	$\sqrt{(\text{ねじり剛性}[1\text{階合計}] \div \text{有効耐力壁量}[1\text{階Y方向}])}$	4.74	
偏心率	2	X方向	偏心距離[2階Y方向] $\div$ 弾力半径[2階X方向]	0.00	
		Y方向	偏心距離[2階X方向] $\div$ 弾力半径[2階Y方向]	0.07	
	1	X方向	偏心距離[1階Y方向] $\div$ 弾力半径[1階X方向]	0.09	
		Y方向	偏心距離[1階X方向] $\div$ 弾力半径[1階Y方向]	0.04	

※ 備考に記号のあるものは、「偏心率明細表」を参照してください。

※ 重心(1階)は、1階および2階の形状を考慮して算出しています。

※ 1階重心(X,Y座標)における係数は屋根や外壁等の仕様(荷重)を元に算出された値です。

■偏心率の判定

各階・各方向の偏心率がすべて0.30以下になる場合 → 適合

各階・各方向の偏心率がひとつでも0.30を超える場合 → 不適合

偏心率判定

適合

偏心率明細表 (1階X方向)

日付: 2024年10月17日 15:10:24

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

■ 1階X方向

通り	Y座標	壁倍率	壁長さ (m)	有効耐力壁量 (m)	耐震要素	剛心Y座標	ねじり剛性
	A	B	C	D=B×C	A×D	E=(口)÷(イ)	D×(A-E) ²
Y1	0.910	2.00	0.910	1.82	1.66	5.64	40.75
Y1	0.910	2.00	0.910	1.82	1.66	5.64	40.75
Y1	0.910	4.00	0.910	3.64	3.31	5.64	81.51
Y1	0.910	4.00	0.910	3.64	3.31	5.64	81.51
Y5	4.550	2.00	0.910	1.82	8.28	5.64	2.17
Y5	4.550	2.00	0.910	1.82	8.28	5.64	2.17
Y6	5.460	4.00	0.910	3.64	19.87	5.64	0.12
Y7	6.370	4.00	0.910	3.64	23.19	5.64	1.93
Y7	6.370	4.00	1.365	5.46	34.78	5.64	2.89
Y9	8.190	2.00	0.910	1.82	14.91	5.64	11.82
Y9	8.190	4.00	1.365	5.46	44.72	5.64	35.45
Y9	8.190	2.00	0.910	1.82	14.91	5.64	11.82
Y12	10.920	2.00	0.910	1.82	19.87	5.64	50.70
Y13	11.830	2.00	1.365	2.73	32.30	5.64	104.54
				40.95	231.04		468.12
				イ	ロ		ハ

※「壁倍率」… #は、同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0となるように低減して計算していることを表しています。

※準耐力壁等は偏心率の計算においては考慮されません。

偏心率明細表
(1階Y方向)

日付: 2024年10月17日 15:10:24

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

■ 1階Y方向

通り	X座標	壁倍率	壁長さ (m)	有効耐力壁量 (m)	耐震要素	剛心X座標	ねじり剛性
	A	B	C	D=B×C	A×D	E=(口)÷(イ)	D×(A-E) ²
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.97	28.70
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.97	28.70
X1	0.000	4.00	0.910	3.64	0.00	3.97	57.40
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.97	28.70
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.97	28.70
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.97	28.70
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.97	28.70
X5	3.640	4.00	0.910	3.64	13.25	3.97	0.40
X5	3.640	2.00	0.910	1.82	6.62	3.97	0.20
X5	3.640	2.00	0.910	1.82	6.62	3.97	0.20
X9	7.280	4.00	1.820	7.28	53.00	3.97	79.72
X9	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	3.97	19.93
X9	7.280	4.00	0.910	3.64	26.50	3.97	39.86
X9	7.280	4.00	0.910	3.64	26.50	3.97	39.86
X9	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	3.97	19.93
				40.04	159.00		429.67
				イ	ロ		ハ

※「壁倍率」… #は、同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0となるように低減して計算していることを表しています。

※準耐力壁等は偏心率の計算においては考慮されません。

2025年基準

######

2025年基準

偏心率明細表
(2階Y方向)

日付: 2024年10月17日 15:10:24

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

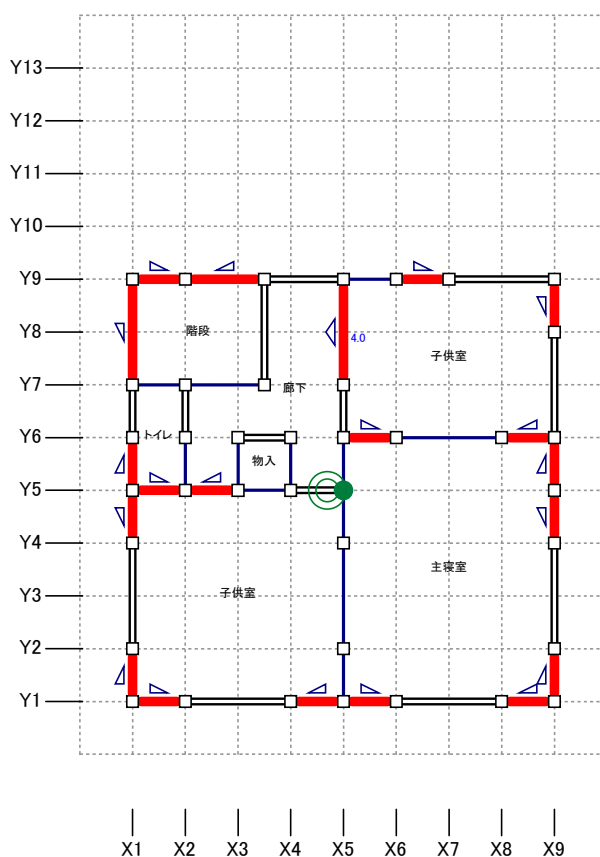
■2階Y方向

通り	X座標	壁倍率	壁長さ (m)	有効耐力壁量 (m)	耐震要素	剛心X座標	ねじり剛性
	A	B	C	$D=B \times C$	$A \times D$	$E=(口) \div (イ)$	$D \times (A-E)^2$
X1	0.000	2.00	1.820	3.64	0.00	3.36	41.09
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.36	20.55
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.36	20.55
X1	0.000	2.00	0.910	1.82	0.00	3.36	20.55
X5	3.640	4.00	1.820	7.28	26.50	3.36	0.57
X9	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	3.36	27.97
X9	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	3.36	27.97
X9	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	3.36	27.97
X9	7.280	2.00	0.910	1.82	13.25	3.36	27.97
				23.66	79.50		215.17
				イ	口		ハ

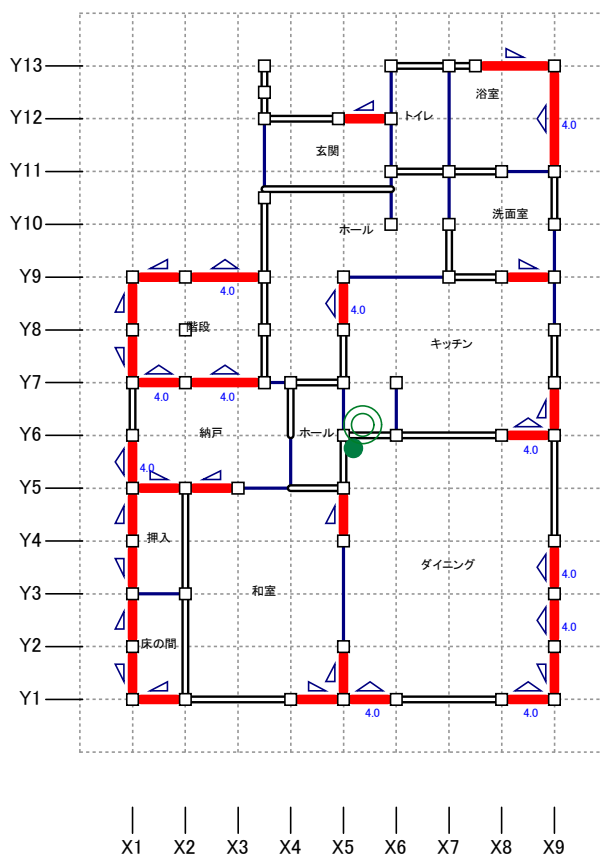
※「壁倍率」… #は、同位置に複数の耐力壁が存在する場合、耐力壁の壁倍率の合計が上限値の7.0となるように低減して計算していることを表しています。

※準耐力壁等は偏心率の計算においては考慮されません。

2階



1階



縮尺 1/130

凡例

一般壁	開口部	柱頭	筋かいダブル	筋かいシングル	柱
面材耐力壁	筋かいダブル	柱頭	筋かいシングル	壁倍率	
小屋裏収納等	重心	剛心	壁倍率	(表記の無い壁の壁倍率は2.0)	

■ブロック別床面積計算表

[1階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
a	1.820	2.185	3.9767000	
b	2.730	1.000	2.7300000	
c	2.730	1.820	4.9686000	
d	4.550	1.820	8.2810000	
e	4.550	0.455	2.0702500	
f	5.460	3.185	17.3901000	
g	5.460	1.820	9.9372000	
h	2.730	1.820	4.9686000	
i	2.730	3.640	9.9372000	
j	2.730	1.820	4.9686000	
Ba	0.910	1.820	1.6562000	□
Bb	0.910	1.820	1.6562000	□

[2階]

区画	縦 (m)	横 (m)	床面積 (㎡)	備考
k	1.820	1.820	3.3124000	
l	1.820	3.640	6.6248000	
m	1.820	1.820	3.3124000	
n	3.640	1.820	6.6248000	
o	3.640	3.640	13.2496000	
p	3.640	1.820	6.6248000	
q	1.820	1.820	3.3124000	
r	1.820	3.640	6.6248000	
s	1.820	1.820	3.3124000	

■四分割対象面積

階	方向	位置	計算式	面積 (㎡)
2	X	上	$(k+l+m)$	13.25
		下	$(q+r+s)$	13.25
	Y	左	$(k+n+q)$	13.25
		右	$(m+p+s)$	13.25
1	X	上	$(a+b+c)$	11.68
		下	$(h+i+j)+(Ba+Bb) \times 0.4$	21.20
	Y	左	$(d+h)$	13.25
		右	$(c+g+j)+(Bb) \times 0.4$	20.54

■記号の説明

「備考」:

- → 跳ね出しバルコニー範囲(跳ね出し部分面積 $\times 0.4$)
- ◇ → 小屋裏収納等範囲(小屋裏収納等の水平投影面積 $\times 1.4 \div 2.1$)
- ◆ → 小屋裏収納等重複範囲(小屋裏収納等の水平投影面積 $\times 1.4 \div 2.1 \times 2$)
- ▲ → 三角形区画

【建築基準法】 接合部

建物名 住木邸新築工事

柱頭柱脚金物算定表（1階柱）

柱頭柱脚金物算定表（2階柱）

使用金物一覧

柱頭柱脚金物算定平面図

柱頭柱脚金物算定立面図

■注意事項

- ・平成12年建設省告示第1460号「木造の継手及び仕口の構造方法を定める件」第二号のただし書きにより接合金物を求める方法に準拠した計算を行います。
- ・N値計算において、1階の柱のN値について、その真上の2階柱の金物のN値が大きい場合、1階柱の金物は2階の柱の金物同等以上としています。
- ・倍率の異なる耐力壁が直交して取り付く場合は、平面におけるX方向とY方向を区分してそれぞれ必要となる金物を選択し、耐力の大きい方の金物を採用します。
- ・2階柱の下に柱が無い場合については、以下のいずれかの方法を選択して計算を行うことができます。
 - 1m以内の範囲にある1階柱が下にあるものとして計算する。
 - 1階の両側の柱が2階柱の引抜力を負担するものとして計算する。
- ・同位置の1階柱頭と2階柱脚の金物（金物が(に)以上の場合）について、以下のいずれかの方法を選択して計算することができます。
 - 同位置の1階柱頭と2階柱脚の金物をそろえる
 - 同位置の1階柱頭と2階柱脚の金物をそろえない
- ・接合部金物は設計者が任意に登録することが可能です。
- ・利用者におかれましては、公的な認定や性能試験を受けているものであること、また性能試験時の構造体の条件等が合致する場合においてのみお使い下さい。

2025年基準

柱頭柱脚金物算定表
(1階柱)

日付: 2024年10月17日 15:10:57

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱 方 向	1階						2階						L	N	接合金物	
	柱状況	パターン	補正 値	A1	B1	柱	柱状況	パターン	補正 値	A2	B2	柱頭			柱脚	
4	X	下屋／他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5							0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
5	X	下屋／出隅	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.8							0.4	0.80	(と)	(と)
	Y		4.0 × 0.0	0.0	4.0									2.80		
8	X	下屋／他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5							0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
9	X	下屋／他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5							0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
13	Y	下屋／他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5							0.6	1.40	(に)	(に)
15	X	下屋／他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	5	他柱(下)	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
18	X	出隅	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.8	1	出隅	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.8	1.0	2.20	無(通し柱)	(と)
	Y	出隅	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.8	1	出隅	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.8		2.20		
19	X	他柱	2.0 / × 4.0	0.5	2.5	0.5	2	他柱	2.0 \ / 2.0	0.0	0.0	0.5	1.6	-0.35	(い)	(い)
20	X	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	3	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	1.6	1.65	(へ)	(へ)
21	X	他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	5	他柱(右)	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	-0.35	(と)	(と)
	Y	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	4	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5		2.40		
22	X	他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	5	他柱(左)	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	-0.35	#(ろ)	#(ろ)
23	X	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5							1.6	-0.35	(い)	(い)
24	X	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5							1.6	-0.85	無(通し柱)	#(ほ)
	Y	他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	7	出隅	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.8		0.40		
25	Y	他柱	2.0 / \ 2.0	1.0	1.0	0.5							1.6	-1.10	(い)	(い)
28	Y	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5							1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
29	Y	他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	8	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	-0.85	#(ろ)	#(ろ)
30	X	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5							1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
	Y	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	9	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5		-0.10		
31	X	他柱	4.0 × × 4.0	0.0	0.0	0.5							1.6	-1.60	(い)	(い)
32	X	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5							1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
34	Y	他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	12	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5	1.6	0.40	#(に)	#(に)
36	Y	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5							1.6	-0.85	(い)	(い)
37	Y	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	13	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.15	(に)	(に)
38	X	他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	17	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	-0.35	#(ろ)	#(ろ)
39	X	他柱	0.0 0.0	0.0	0.0	0.5	18	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	-0.85	#(ろ)	#(ろ)
40	X	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5	19	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.15	(に)	(に)
41	X	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	20	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	1.6	1.65	(へ)	(へ)
	Y	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	20	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5		0.40		
42	X	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	21	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	1.6	0.90	(は)	(は)
	Y	他柱	2.0 \ × 4.0	0.0	2.0	0.5	21	他柱	2.0 / \ 2.0	1.0	1.0	0.5		-0.10		
43	X	他柱	2.0 \ / 2.0	0.0	0.0	0.5	22	他柱	2.0 \ / 2.0	0.0	0.0	0.5	1.6	-1.60	(い)	(い)
44	X	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	23	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	1.6	0.90	(は)	(は)
45	Y	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5							1.6	-0.85	(い)	(い)
46	Y	他柱	2.0 / \ 2.0	1.0	1.0	0.5	27	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	-0.35	#(ろ)	#(ろ)
47	Y	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5							1.6	-0.35	(い)	(い)
48	Y	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	29	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.15	(に)	(に)
49	Y	他柱	2.0 \ / 2.0	0.0	0.0	0.5							1.6	-1.60	(い)	(い)
51	Y	他柱	4.0 × × 4.0	0.0	0.0	0.5							1.6	-1.60	(い)	(い)
52	Y	他柱	2.0 / \ 2.0	1.0	1.0	0.5	30	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	-0.35	#(ろ)	#(ろ)
53	Y	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5							1.6	-0.85	(い)	(い)
54	Y	他柱	2.0 / × 4.0	0.5	2.5	0.5	32	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
55	X	出隅	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.8	33	出隅	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.8	1.0	2.20	無(通し柱)	(と)
	Y	出隅	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.8	33	出隅	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.8		2.20		

■記号の説明

- ・「方向」… 柱に斜め方向の耐力壁が取り付け場合は方向が「Z1方向」「Z2方向」となります。(最大斜め2方向まで)
- ・「パターン」… 柱両側の耐力壁の取り付けを表しています。 X: 筋かいダブル /: 筋かいシングル □: 面材耐力壁

- ・「2階 柱状況」… () 表記は、1階の柱から見た2階の柱の平面位置を表しています。
- ・「接合金物(柱頭・柱脚)」… #は1階柱の金物をよりN値の大きい2階柱の金物に合わせたことを表しています。
(2階柱の引抜き力を土台・基礎に伝達するため)
※は2階柱脚金物をよりN値の大きい1階柱頭の金物に揃えたことを表しています。
(1つの金物で上下階の柱を接合するため)
*は設計者により編集された金物を表しています。(自動設定された金物以上の金物を選択)

■計算条件

- ・2階柱の下に柱がない場合の計算方法 → 1m以内の範囲にある1階柱が下にあるものとして計算する。
- ・同位置の1階柱頭と2階柱脚の金物をそろえる。 ※ただし、金物が(に)以上の場合
- ・壁倍率1.5倍超の準耐力壁を含む

2025年基準

柱頭柱脚金物算定表
(1階柱)

日付: 2024年10月17日 15:10:57

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱	方 向	1階					2階						L	N	接合金物	
		柱状況	パターン	補正 値	A1	B1	柱	柱状況	パターン	補正 値	A2	B2			柱頭	柱脚
56	X	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	34	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
57	X	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	35	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	0.40	(ろ)	(ろ)
58	X	他柱	2.0 \ × 4.0	0.0	2.0	0.5	36	他柱	2.0 / \ 2.0	1.0	1.0	0.5	1.6	-0.10	(い)	(い)
	Y	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5								-0.35		
59	X	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	37	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.15	(に)	(に)
60	X	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5	38	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	1.6	1.15	(に)	(に)
61	X	出隅	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.8	39	出隅	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.8	1.0	4.20	(り)	(り)
	Y	出隅	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.8	39	出隅	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.8		2.20		

■記号の説明

- ・「方向」… 柱に斜め方向の耐力壁が取り付け場合は方向が「Z1方向」「Z2方向」となります。(最大斜め2方向まで)
- ・「パターン」… 柱両側の耐力壁の取り付けを表しています。 X: 筋かいダブル / : 筋かいシングル □: 面材耐力壁

- ・「2階 柱状況」… () 表記は、1階の柱から見た2階の柱の平面位置を表しています。
- ・「接合金物(柱頭・柱脚)」… #は1階柱の金物をよりN値の大きい2階柱の金物に合わせたことを表しています。
(2階柱の引抜力を土台・基礎に伝達するため)
※は2階柱脚金物をよりN値の大きい1階柱頭の金物に揃えたことを表しています。
(1つの金物で上下階の柱を接合するため)
*は設計者により編集された金物を表しています。(自動設定された金物以上の金物を選択)

■計算条件

- ・2階柱の下に柱がない場合の計算方法 → 1m以内の範囲にある1階柱が下にあるものとして計算する。
- ・同位置の1階柱頭と2階柱脚の金物をそろえる。 ※ただし、金物が(に)以上の場合
- ・壁倍率1.5倍超の準耐力壁を含む

2025年基準

柱頭柱脚金物算定表
(2階柱)

日付: 2024年10月17日 15:10:57

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

柱	方向	柱状況	パターン	補正 値	A1	B1	L	N	接合金物	
									柱頭	柱脚
1	X	出隅	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.60	(ほ)	無(通し柱)
	Y		2.0 / 0.0	0.5	2.5			1.60		
2	X	他柱	2.0 \ / 2.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.60	(い)	(い)
3	X	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	※(へ)
4	Y	他柱	4.0 × 0.0	0.0	4.0	0.5	0.6	1.40	(に)	※(と)
5	X	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
6	X	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
7	Y	出隅	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.60	(ほ)	無(通し柱)
8	Y	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
9	Y	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
12	Y	他柱	0.0 × 4.0	0.0	4.0	0.5	0.6	1.40	(に)	(に)
13	Y	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	※(に)
17	X	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
18	X	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
19	X	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	※(に)
20	X	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	※(へ)
	Y		2.0 \ 0.0	-0.5	1.5			0.15		
21	X	他柱	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
	Y		2.0 / \ 2.0	1.0	1.0			-0.10		
22	X	他柱	2.0 \ / 2.0	0.0	0.0	0.5	0.6	-0.60	(い)	(い)
23	X	他柱	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.5	0.6	0.65	(ろ)	(ろ)
26	Y	他柱	2.0 / \ 2.0	1.0	1.0	0.5	0.6	-0.10	(い)	(い)
27	Y	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
29	Y	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	※(に)
30	Y	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
32	Y	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
33	X	出隅	0.0 \ 2.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.60	(ほ)	無(通し柱)
	Y		0.0 \ 2.0	0.5	2.5			1.60		
34	X	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
35	X	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	(ろ)
36	X	他柱	2.0 / \ 2.0	1.0	1.0	0.5	0.6	-0.10	(い)	(い)
37	X	他柱	2.0 \ 0.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	※(に)
38	X	他柱	0.0 / 2.0	-0.5	1.5	0.5	0.6	0.15	(ろ)	※(に)
39	X	出隅	2.0 / 0.0	0.5	2.5	0.8	0.4	1.60	(ほ)	※(り)
	Y		0.0 \ 2.0	0.5	2.5			1.60		

■記号の説明

- ・「方向」… 柱に斜め方向の耐力壁が取り付けの場合は方向が「Z1方向」「Z2方向」となります。(最大斜め2方向まで)
△は、その方向の引抜力を負担する1階柱が存在しないことを表しています。
- ・「パターン」… 柱両側の耐力壁の取り付けを表しています。 X: 筋かいダブル /: 筋かいシングル □: 面材耐力壁
- ・「2階 柱状況」… () 表記は、1階の柱から見た2階の柱の平面位置を表しています。
- ・「接合金物(柱頭・柱脚)」… #は1階柱の金物をよりN値の大きい2階柱の金物に合わせたことを表しています。
(2階柱の引抜力を土台・基礎に伝達するため)
※は2階柱脚金物をよりN値の大きい1階柱頭の金物に揃えたことを表しています。
(1つの金物で上下階の柱を接合するため)
*は設計者により編集された金物を表しています。(自動設定された金物以上の金物を選択)

■計算条件

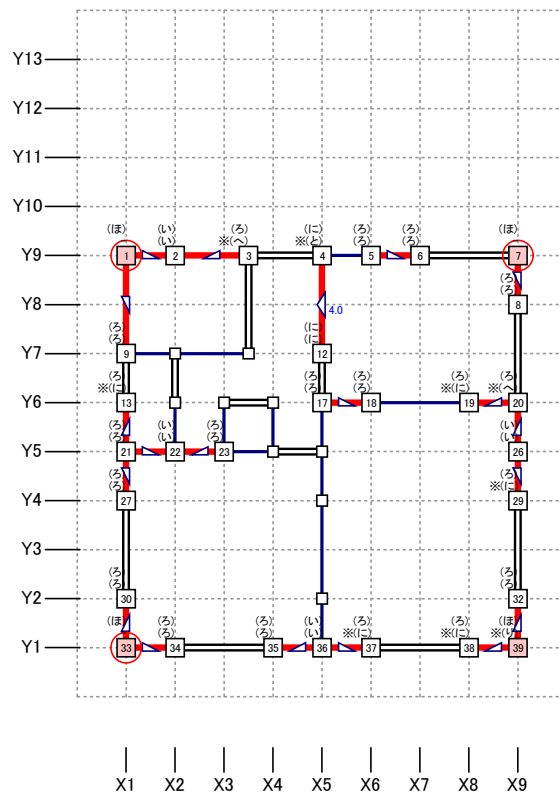
- ・2階柱の下に柱がない場合の計算方法 → 1m以内の範囲にある1階柱が下にあるものとして計算する。
- ・同位置の1階柱頭と2階柱脚の金物をそろえる。 ※ただし、金物が(に)以上の場合
- ・壁倍率1.5倍超の準耐力壁を含む

■ 柱頭柱脚接合部金物

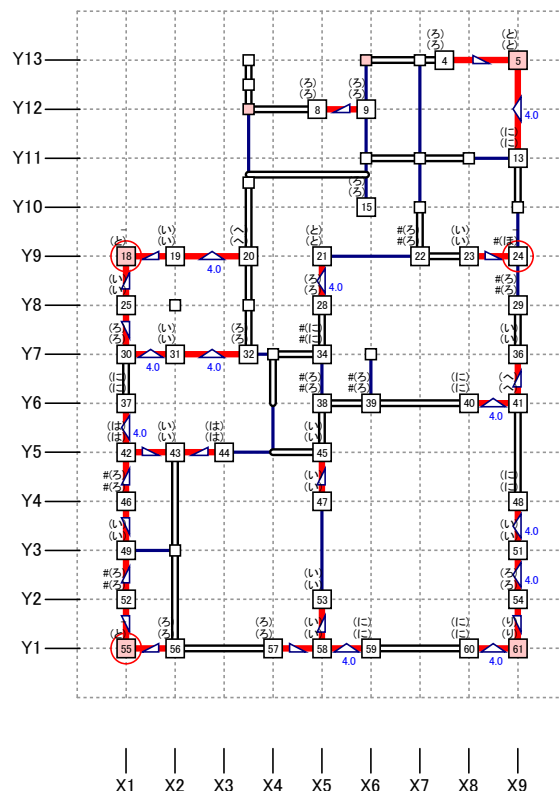
N値	告示 表三	金物名	略称	注意事項(認定番号)	金物数量(箇所)		
					1階	2階	合計
0	(い)	短ほぞ差し及びかすがい打ち	カスガイ		56	26	82
~0.65	(ろ)	長ほぞ差し込み栓又はかど金物CP-L	CP-L		32	33	65
~1.0	(は)	山形プレートVP又はかど金物CP-T	VP		4	0	4
~1.4	(に)	羽子板ボルト又は短冊金物(スクリュー釘なし)	SB-F2		14	8	22
~1.6	(ほ)	羽子板ボルト又は短冊金物(スクリュー釘あり)	SB-F		1	4	5
~1.8	(へ)	10kN引き寄せ金物	HD-B10		4	2	6
~2.8	(と)	15kN引き寄せ金物	HD-B15		6	1	7
~3.7	(ち)	20kN引き寄せ金物	HD-B20		0	0	0
~4.7	(り)	25kN引き寄せ金物	HD-B25		2	1	3
~5.6	(ぬ)	15kN引き寄せ金物×2	HD-B15×2		0	0	0
5.6超	(一)	適合する金物が存在しない	N>5.6		0	0	0

・設計者が任意に追加、編集した金物の行は網掛け(☐)で表示されます。

2階



1階



縮尺 1/140

*印の金物は設計者により編集された金物を示す。(自動設定された金物以上の金物を選択)
※印の金物は2階柱脚を1階柱頭に合わせたことを示す。(1つの金物で上下階の柱を接合するため)
#印の金物は1階柱を2階柱に合わせたことを示す。(2階柱の引抜力を土台・基礎に伝達するため)

凡例	一般壁	開口部	検討柱	検討外柱	※検討外柱は (い) の金物を使用する。	出隅柱	通し柱	準耐力壁 (壁倍率1.5倍超)
	面材耐力壁	大臣認定耐力壁	筋かいダブル	柱頭	柱脚	筋かいシングル	壁倍率 2.0 (表記の無い壁の壁倍率は2.0)	
(い) カスガイ	(ろ) CP-L	(は) VP	(に) SB-F2	(ほ) SB-F	(へ) HD-B10	(と) HD-B15	(ち) HD-B20	(り) HD-B25
(—) N>5.6								(ぬ) HD-B15×2

建物名:住木邸新築工事

建物名:住木邸新築工事

柱の小径判定表

② 座屈の検定式 (樹種:任意選択)

日付: 2024年10月17日 15:11:22

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

階	柱番号	柱位置	樹種 番号	座屈高さ (mm)	断面寸法 W×D	必要小径 (mm)	小径 【判定】	有効細長比	有効細長比 【判定】 (150以下)
1階(下屋)	1	X3',Y13	1	2,844	105×105	85	OK	93.83	OK
1階(下屋)	2	X5',Y13	1	2,844	105×105	85	OK	93.83	OK
1階(下屋)	3	X7,Y13	1	2,844	105×105	85	OK	93.83	OK
1階(下屋)	4	X7',Y13	1	2,844	105×105	85	OK	93.83	OK
1階(下屋)	6	X3',Y12'	1	2,844	105×105	85	OK	93.83	OK
1階(下屋)	7	X3',Y12	1	2,844	105×105	85	OK	93.83	OK
1階(下屋)	8	X4',Y12	1	2,844	105×105	85	OK	93.83	OK
1階(下屋)	10	X5',Y11	1	2,844	105×105	85	OK	93.83	OK
1階(下屋)	11	X7,Y11	1	2,844	105×105	85	OK	93.83	OK
1階(下屋)	12	X8,Y11	1	2,844	105×105	85	OK	93.83	OK
1階(下屋)	13	X9,Y11	1	2,844	105×105	85	OK	93.83	OK
1階(下屋)	14	X3',Y10'	1	2,844	105×105	85	OK	93.83	OK
1階(下屋)	15	X5',Y10	1	2,844	105×105	85	OK	93.83	OK
1階(下屋)	16	X7,Y10	1	2,844	105×105	85	OK	93.83	OK
1階(下屋)	17	X9,Y10	1	2,844	105×105	85	OK	93.83	OK
1階	18	X1,Y9	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	19	X2,Y9	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	20	X3',Y9	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	21	X5,Y9	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	22	X7,Y9	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	23	X8,Y9	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	24	X9,Y9	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	25	X1,Y8	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	26	X2,Y8	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	27	X3',Y8	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	28	X5,Y8	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	29	X9,Y8	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	30	X1,Y7	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	31	X2,Y7	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	32	X3',Y7	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	33	X4,Y7	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	34	X5,Y7	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	35	X6,Y7	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	36	X9,Y7	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	37	X1,Y6	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	38	X5,Y6	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	39	X6,Y6	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	40	X8,Y6	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	41	X9,Y6	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	42	X1,Y5	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	43	X2,Y5	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	44	X3,Y5	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	45	X5,Y5	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	46	X1,Y4	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	47	X5,Y4	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	48	X9,Y4	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	49	X1,Y3	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	50	X2,Y3	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	51	X9,Y3	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	52	X1,Y2	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	53	X5,Y2	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	54	X9,Y2	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	55	X1,Y1	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	56	X2,Y1	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	57	X4,Y1	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	58	X5,Y1	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	59	X6,Y1	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
1階	60	X8,Y1	1	2,844	105×105	105	OK	93.83	OK
2階	2	X2,Y9	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK

柱の小径判定表

② 座屈の検定式 (樹種:任意選択)

日付: 2024年10月17日 15:11:22

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

階	柱番号	柱位置	樹種 番号	座屈高さ (mm)	断面寸法 W×D	必要小径 (mm)	小径 【判定】	有効細長比	有効細長比 【判定】 (150以下)
2階	3	X3,Y9	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	4	X5,Y9	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	5	X6,Y9	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	6	X7,Y9	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	7	X9,Y9	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	8	X9,Y8	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	9	X1,Y7	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	10	X2,Y7	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	11	X3,Y7	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	12	X5,Y7	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	13	X1,Y6	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	14	X2,Y6	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	15	X3,Y6	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	16	X4,Y6	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	17	X5,Y6	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	18	X6,Y6	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	19	X8,Y6	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	20	X9,Y6	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	21	X1,Y5	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	22	X2,Y5	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	23	X3,Y5	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	24	X4,Y5	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	25	X5,Y5	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	26	X9,Y5	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	27	X1,Y4	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	28	X5,Y4	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	29	X9,Y4	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	30	X1,Y2	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	31	X5,Y2	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	32	X9,Y2	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	34	X2,Y1	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	35	X4,Y1	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	36	X5,Y1	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	37	X6,Y1	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK
2階	38	X8,Y1	1	2,730	105×105	84	OK	90.07	OK

両方向から面材が取り付け柱は計算対象外
「樹種番号」は、下表「樹種リスト」に対応

■ 樹種リスト

樹種番号	材種名
1	すぎ 無等級製材

柱の小径判定表

③ 柱の負担面積 (樹種:任意選択)

日付: 2024年10月17日 15:11:40
建物コード: 000000
建物名: 住木邸新築工事

階	位置	柱番号	柱位置	樹種 番号	座屈高さ (mm)	断面寸法 W×D	負担可能 面積 (㎡)	負担面積 (㎡)	負担面積 【判定】	有効細長比	有効細長比 【判定】 (150以下)
1階(下屋)	外周部	14	X3',Y10'	1	2,844	105×105	12.40	1.32	OK	93.83	OK
1階(下屋)	内部	12	X8,Y11	1	2,844	105×105	15.61	1.48	OK	93.83	OK
1階	外周部	48	X9,Y4	1	2,844	105×105	5.14	2.02	OK	93.83	OK
1階	内部	47	X5,Y4	1	2,844	105×105	6.87	4.03	OK	93.83	OK
2階	外周部	29	X9,Y4	1	2,730	105×105	13.78	2.43	OK	90.07	OK
2階	内部	28	X5,Y4	1	2,730	105×105	17.28	3.93	OK	90.07	OK

両方向から面材が取り付く柱は計算対象外
同一の階・位置において負担面積が最大となる柱および判定NGとなる柱のみ表示
「樹種番号」は、下表「樹種リスト」に対応

■ 樹種リスト

樹種番号	材種名
1	すぎ 無等級製材

2025年基準

柱負担面積根拠図

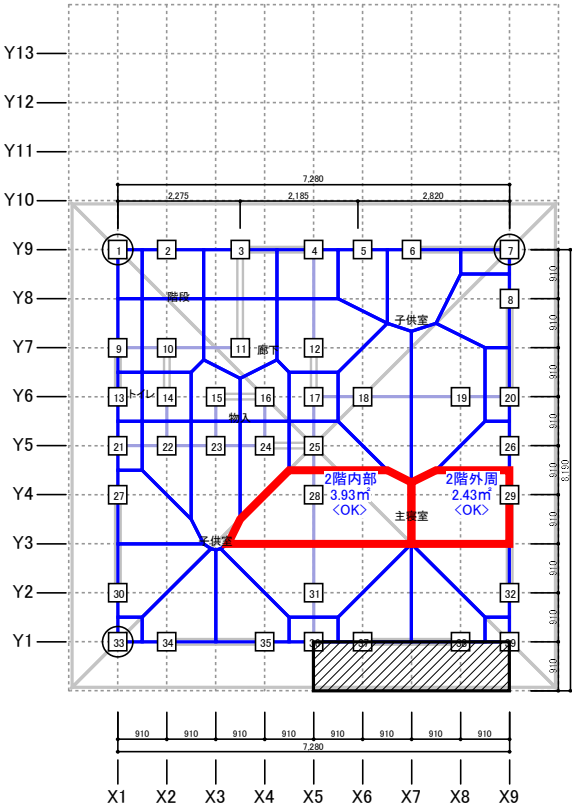
③ 柱の負担面積

日付: 2024年10月17日 15:11:40

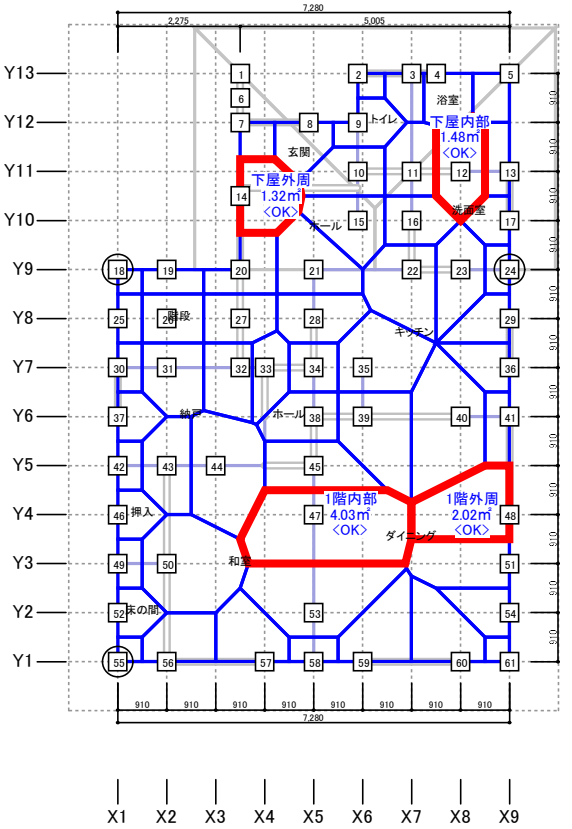
建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

2階



1階



縮尺 1/140

凡例

— 無開口壁

— 開口壁

— 柱負担範囲分割線

※赤線は最大の負担面積の範囲を表す

□ 柱

○ 通し柱

※数値とOK・NGは負担面積および柱の小径判定結果

※両方向から面材が取り付く柱は対象外

2025年基準

構造安全性チェック

日付: 2024年10月17日 15:12:04

建物コード: 000000

建物名: 住木邸新築工事

■ 建物情報

屋根の仕様	瓦屋根(ふき土無)(990N/m ²)	風力区分	一般地域	強風地域
外壁の仕様	サイディング(600N/m ²)			

■ 壁量計算(令46条)

壁量計算			地震力	風圧力	地震力	風圧力	・令46条「構造耐力上必要な軸組み等」(=壁量計算)の計算結果。 各階各方向ごとに、存在壁量が地震力および風圧力に対する必要壁量の両方の数値以上であることを確認します。 ◎: 建築基準法で定める壁量の1.50倍以上 ○: 建築基準法で定める壁量の1.00倍以上 ×: 建築基準法で定める壁量の1.00倍未満
	2階	X方向	1.65	2.58	◎	◎	
		Y方向	1.85	2.88	◎	◎	
	1階	X方向	1.58	1.67	◎	◎	
		Y方向	1.65	2.18	◎	◎	

■ 壁配置バランス(令46条及び平12建告1352号)

偏心率			偏心率		判定		・平12建告1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」に基づいた偏心率の結果。偏心率が0.30以下であることを確認します。 ◎: 偏心率が0.15以下 ○: 偏心率が0.30以下 ×: 偏心率が0.30を超える
	2階	X方向	0.00		◎		
		Y方向	0.07		◎		
	1階	X方向	0.09		◎		
		Y方向	0.04		◎		
四分割法			充足率	壁率比	充足率	壁率比	・平12建告1352号「木造建築物の軸組の設置の基準を定める件」に基づいた四分割法の結果。 壁量充足率が1.00を越える又は0.5以上であることを確認します。 ◎: 壁量充足率1.50を超える ◎: 壁率比0.70以上 ○: 壁量充足率1.00を超える ○: 壁率比0.50以上 ×: 壁量充足率1.00以下 ×: 壁率比0.50未満
	2階	X方向	1.71/1.96	—	◎	◎	
		Y方向	2.45/1.96	—	◎	◎	
	1階	X方向	1.77/1.32	—	○	◎	
		Y方向	2.81/2.27	—	◎	◎	

■ N値計算(令47条及び平12建告1460号)

柱のN値			N値>5.6	判定	・平12建告1460号「木造の継手及び仕口の構造方法を定める件」第二号のただし書きより接合金物を求めています。 ◎: N値0本以下 ◎: 2階柱0本以下 △: N値3本以下 △: 2階柱3本以下 ×: N値4本以上 ×: 2階柱4本以上
	2階		0本	◎	
	1階		0本	◎	
引抜力を負担する1階柱が存在しない2階柱			該当本数	判定	
			0本	◎	

■ 耐力壁線間距離(品確法「床倍率のチェック」)

耐力壁線間距離			8m超部分	判定	・耐力壁線間距離は8m以下となるようにします。 ◎: 無し ×: 有り
	2階		無し	◎	
	1階		無し	◎	

■ 壁・柱直下率

		直下率		判定		①柱直下率=2階柱の総数に対する、直下に1階の柱がある2階柱の本数の割合 (◎:60%以上 △:50%以上 ×:50%未満) ②壁直下率=2階の間仕切壁線の全長に対して、直下に1階の間仕切壁が2階間仕切壁の長さの割合 (◎:65%以上 △:55%以上 ×:55%未満) ③耐力壁直下率=2階の耐力壁の量に対する、直下に1階の耐力壁がある2階の耐力壁の量の割合 (◎:50%以上 △:30%以上 ×:30%未満) ④隅角部耐力壁無=建築物の隅角部において両側または片側に耐力壁が配置されていない部分の箇所数 (◎:2箇所以下 △:4箇所以下 ×:5箇所以上)
①	柱直下率	84.6%		◎		
②	壁直下率	89.9%		◎		
③	耐力壁直下率	X方向	82.6%	◎		
		Y方向	61.5%	◎		
④	隅角部耐力壁無		両側無	片側無	両側無	片側無
		2階	0/4箇所	1/4箇所	◎	◎
		1階	2/8箇所	2/8箇所	◎	◎